



一般社団法人
タウンスペース WAKWAK
2024 年度 事業報告

「ひとりぼっちのいないまちをつくる」（社会的包摂の実現）をめざして以下のとおり事業を行いました。

2024年度は富田エリア事業において昨年度に引き続き子どもから高齢者までの切れ目のない支援を生み出す事業を行い、また新たに子ども第三の居場所事業をスタートし地域の様々な担い手の方々と多岐にわたる事業にチャレンジしました。

また、2021年度に着手をはじめた市域全域を対象とした広域事業において市域全域のネットワーク機能の充実化や小中学校区を単位とした小地域ネットワークの構築、企業との連携による市内子ども支援団体への食支援の継続実施および高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業（厚労省支援対象児童等見守り強化事業）の4か年目となる事業、また、3か年目となる子ども家庭庁「ひとり親等の子どもの食事等支援事業」を受託しました。これらの事業を通して自治会や老人会などの地縁組織、子ども支援団体をはじめ多様なNPOや学校、大学、企業、医療関係、宗教関係等の分野を超えた多セクター共創による支援の仕組みを構築し、かつ高槻市との事業等とも連動させる中で民と民、官と民の連携の仕組みを構築しました。

また、学術分野においてはこれまでの当法人はもとより富田地域および高槻市域全域の実践を書籍『ひとりぼっちのいない町をつくる』としてもまとめ、日本地域福祉学会「地域福祉優秀実践賞」という光栄な賞もいただきました。

I. 法人運営事業

1) 会員拡大

各種事業の場や広報活動を通じ、本法人の目的に賛同しともに活動を進めようとする正会員および賛助会員について以下の通りの会員数となりました。

	会員数	口数	前年度会員数	口数
正会員（団体）	6	10	5	13
〃（個人）	10	10	11	11
賛助会員(団体)	7	7	7	8
〃（個人）	63	229	78	275
合計	86名	256口	101名	307口

※法人格のない団体について個人として規定していましたが任意団体も団体と規定変更しました。

2) 理事会、社員総会および企画運営スタッフ会議の開催

①理事会の開催

日時	場所	議案
第1回理事会 5月29日（水）	対面（富田ふれあい文化センター）およびオンライン（ZOOM）のハイブリ	〈報告案件〉 第1号議案 2023年度事業報告承認について 第2号議案 2023年度決算報告について

	ッド形式	第3号議案 2023年度監事監査報告について 第4号議案 副代表理事および業務執行理事の報酬について 〈議決案件〉 第1号議案 代表理事・副代表理事・業務執行理事選任の件 第2号議案 法人スタッフ・アルバイトの新規雇用について
第2回理事会 10月28日（月）	対面（富田ふれあい文化センター）およびオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式	〈報告案件〉 第1号議案 2024年度上半期事業中間報告について 第2号議案 2024年度上半期中間決算報告について 第3号議案 法人スタッフの最賃変更について 〈議決案件〉 第1号議案 2024年度下半期事業の方向性について
第3回理事会 3月28日（金）	対面（富田ふれあい文化センター研修室）およびオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式	〈報告案件〉 第1号議案 2025年度事業計画案について 第2号議案 2025年度予算案について 〈議決案件〉 第1号議案 決算理事会・社員総会の日程について

②社員総会の開催

日時	場所	議案
第1回 社員総会 5月29日（水）	対面（WAKWAK事務所）およびオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式	〈報告案件〉 第1号議案 2023年度事業報告承認について 〈議決案件〉 第1号議案 2023年度決算報告承認について 第2号議案 2023年度監事監査報告承認について 第3号議案 理事・監事の任期満了に伴う改選について 第4号議案 業務執行理事および新任理事の報酬について
第2回 社員総会 3月28日（金）	対面（富田ふれあい文化センター研修室）およびオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式	第1号議案 2025年度事業計画案について 第2号議案 2025年度予算案について

③企画運営スタッフ会議の開催

2024年度は理事・社員・運営スタッフ含め28名のメンバーでスタッフ会議を計3回、対面およびオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式で開催しました。

① 5月29日 ②10月28日 ③3月28日

3) 情報発信活動

①情報誌「WAKWAK通信」の発行

情報誌「WAKWAK通信」を計3回（第38号・39号・40号）発行しました。

	内容	発行部数
38号	(6月号) ・市域広域事業、新たなスタートへ ・特集 市域広域事業3年間を振り返り、新たなスタートへ ・「わくわく基金」の創設 ・こども第三の居場所「NikoNikoひろば」プレオープン！ ・高齢者ふれあい喫茶 ・書籍「ひとりぼっちのいない町をつくる」刊行 ・日本地域福祉学会 地域福祉優秀実践賞受賞 ・第三の居場所応援キャンペーン2023	各1000部
39号	(9月号) ・より小地域に、より広域に ・特集 日本地域福祉学会 地域福祉優秀実践賞受賞 ・受賞選考結果 講評 ・子ども第三の居場所「NikoNiko ひろば」の様子 ・生活応援・緊急食糧支援を実施しました。 ・富田富寿栄盆踊り大会 2024 を開催しました ・わくわく基金中間報告会を実施しました	
40号	(1月号) ・見守り、支え、共に体験すること ・特集 子ども第三の居場所の1年間 ・MORIUMIUS（モリウミナス）さんの宿泊プログラムへ ・高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業（4年目）のご報告 ・ボードレスアート展 2024 を開催しました ・大阪府子ども食堂ネットワークシンポジウムで活動を報告しました。 ・わくわく基金実践報告会を開催しました。	

②インターネットを活用した発信

「タウンスペースWAKWAK」のHPをリニューアルし（URL：<https://ts-wakwak.com/>）充実させたほか「タウンスペースWAKWAK」Facebookページの更新にも努め、日々の活動を常に発信するなど広く情報発信に努めました。

4) 受賞歴等

①日本地域福祉学会『地域福祉優秀実践賞』受賞

日本地域福祉学会が地域福祉に関する優れた実践を掘り起こし、全国の地域福祉の発展と向上に寄与するべく創設された第21回『地域福祉優秀実践賞』を受賞し、6月15日（土）・16日（日）の2日間にわたり東京文京学院大学で開催された大会の授賞式に出席。実践についての報告を行い、講評では「より小地域に、より広域に」、富田地域での地域に密着した取り組みと高槻市域全域を対象とした広域事業の一体的展開に評価をいただきました。

② スミセイ未来大賞「内閣府特命担当大臣賞」受賞

住友生命創業 100 周年を機に創設された第 18 回「未来をつよくする子育てプロジェクト子育て活動表彰」において大賞・内閣府特命担当大臣賞を受賞させていただきました。2 月 28 日は、東京国際フォーラム会館で行われた表彰式に出席、三原順子・内閣府（子ども政策等）特命担当大臣名の表彰状、住友生命さまより盾を頂きました。

講評では「自分達独自の活動に加えて、まちづくりや地域全体の生活支援など幅広く取りくんでいる点やネットワーク形成を高く評価させて頂いた」とのコメントを頂きました。

6) 経営・財務管理

2024年度は、前年度までの大型助成金である休眠預金事業満了後の財源確保という課題を捉え持続的な活動を担保していくための経営計画と適切な財務管理を行うと共に、社会貢献事業を安定的に支えていくため、昨年度にファンドレイジング部門の創設と担当者の位置づけ、戦略策定を行い、今期それらの実施を進めました。寄付メニューの充実化やインターネットによる寄付の仕組みのリニューアル、多様な財源のあり方に対する検討など財源の確保に取り組みました。また、関係のみなさまからご支援や応援をいただきました。

○2012年度決算（法人設立時）	7,973,202円
○2017年度決算	13,870,719円
○2018年度決算	17,202,945円
○2021年度決算	28,628,989円
○2022年度決算	37,123,145円
○2023年度決算（前年度）	35,666,774円
○2024年度決算（今年度）	35,517,038円（剰余金722,975円）

7) 各種規程の制定について

休眠預金を活用した事業の採択に伴い、休眠預金等活用法指定団体である一般財団法人「日本民間公益活動連携機構（JANPIA）」の定める各種規程を制定（2020年3月理事会・社員総会議決）し、法人ホームページに掲載するなど、情報公開を図るとともに透明性の確保に努めました。

（以下、整備している規程類）

- ・社員総会運営規程・理事会構成規程・理事会運営規程・役員報酬および費用規程・特定個人情報保護規程
- ・情報公開規程・文書管理規程・経理規程・倫理規定・コンプライアンス規程・リスク管理規程・公益通報者保護に関する規程・内部通報規程・理事の職務権限規程・監事監査規程・利益相反防止のための自己申告等に関する規程・事務局規程・人件費水準

8) 中期計画（2023-2025）の実施

当法人および地域支援全体の方向性を明確化しかつ多岐にわたるステークホルダー（関係者）と共有するため多様な関係機関との協議を経て昨年度「中期計画（2023-2025）」を策定。それら中期計画の方針と情勢変化等を踏まえた 2024 年度の重点課題を明確にし組織・事業運営を行いました。

Ⅱ．調査研究事業

富田エリア事業、市域広域事業等の実践を通じて得られた知見を他地域（全国）の課題解決に広く活かすべく論文執筆・投稿等を通じて発信しました。

1) 書籍の刊行

大阪大学大学院修士論文においてまとめた当法人による高槻富田地区および高槻市域全域の取り組みについて大幅にリライトし書籍化、明石書店より刊行しました。

書籍『ひとりぼっちのいない町 - 貧困・教育格差に取り組む大阪・高槻富田の実践に学ぶ - 』（明石書店）

- ・著書：岡本工介（当法人事務局長）
- ・解題：志水宏吉（大阪大学）
- ・本の帯：湯浅誠（認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ）
- ・本の紹介：被差別部落において発展したまちづくりの実践を、子どもの貧困等に対応するための、より広域の包摂支援として展開するためには？大阪・高槻富田を拠点に、社会運動性をコミュニティ・オーガナイズングに取り入れ、多セクター共創で「ひとりぼっちのいない町」づくりを行う一般社団法人 WAKWAK の実践を、アクションリサーチを通して論じる。
- ・コラム：地域関係者や学識者、学校関係者など 12 名の方にコラムを執筆いただきました。

2) 論文の執筆

①関西大学人権問題研究室 紀要論文への寄稿

当法人事務局長が委嘱研究員として所属する関西大学人権問題研究室の紀要論文において市域広域事業の取り組みをまとめ投稿しました。

	投稿誌名	タイトル	内容
1	「関西大学人権問題研究室」紀要 88 号	「子どもから高齢者の切れ目のない支援の創出のためのアクションリサーチ：大阪府高槻市富田地区における取組から」	富田地区における子どもから高齢者までを対象とした多様な事業について実践報告論文としてまとめました。
2	「関西大学人権問題研究室」紀要 89 号	「多機関協働による子ども第三の居場所創出のためのアクションリサーチ：大阪府高槻市富田地区における取組から」	富田地区における子ども第三の居場所事業について近年の子ども家庭庁の動きや行政、学校等との多機関協働の必要性とその具体的な実践について実践報告論文としてまとめました。

3) 学会発表など

①日本地域福祉学会「第 38 年次大会」学会発表・ポスター発表

日本地域福祉学会第 38 回年次大会において当法人による高槻市全域を対象とした取り組みについて学会発表および休眠預金事業活用事業に対するポスター発表を行いました。

ア. 学会発表

- ・日時：2024 年 6 月 16 日（日）
- ・場所：東京・文京学院大学本郷キャンパス
- ・学会テーマ：「大都市の生活基盤と多様性を問う-広域性をふまえた新しい対象と主体-」
- ・報告内容：「高槻市における官民連携による包摂型地域づくりに対応した先駆的実践」

イ. ポスター発表

- ・日時：2024 年 6 月 16 日（日）
- ・場所：東京・文京学院大学本郷キャンパス
- ・学会テーマ：「大都市の生活基盤と多様性を問う-広域性をふまえた新しい対象と主体-」
- ・ポスター発表：「休眠預金等活用事業を活用した組織や活動の発展戦略に関する一考察」
- ※認定 NPO 法人全国こども食堂市センター・むすびえ休眠預金事業を受託した 4 団体と合同発表

②こども家庭庁支援対象児童等見守り強化事業・オンラインセミナー

こども家庭庁事業において「高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業」の実践について全国にその事例を
実践報告しました。

- ・日時：2025 年 3 月 5 日（水）午後 2 時～4 時
- ・オンライン ZOOM
- ・内容：子ども家庭庁支援対象児童等見守り強化事業の実践事例報告
○報告者 長崎県佐世保市
高槻市/一般社団法人タウンスペース WAKWAK
三重県鈴鹿市
- ・対象者：全国の自治体や社会福祉協議会、子ども食堂等運営団体等
- ・参加者：200 名
- ・企画・運営：認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
- ・主催：子ども家庭庁

4) 共同研究・研究会・科研プロジェクト等への参加

①大阪大学との共創知を生み出す取り組み

富田地区および市域広域の実践および研究を深めるべく 2019 年に OOS 協定を締結した大阪大学とコミュニ
ティ再生事業や市域広域事業等に取り組み、その実践を報告書にまとめるなど共同研究を行いました。

※OOS（大阪大学オムニサイト）とは：「共創知」を生み出す場をテーマに産官社学連携により、共生社会を
創造していくための新たな仕組のこと。

5) 研究者による事業評価

学識者として関わる大学の研究者による事業評価会議を以下のとおり実施し事業の評価及び社会的意義に
ついて検討、その結果を論文等にまとめ知見として発信しました。

- ・日時：2025 年 3 月 3 日（月）午後 1 時～3 時
- ・オンライン ZOOM
- ・内容：当法人の事業の評価
- ・メンバー：学識者 志水宏吉さん（武庫川女子大学教授）、高田一宏さん（大阪大学教授）、若槻健さん（関
西大学教授）、内田龍史さん（関西大学教授）、相楽典子さん（平安女学院大学准教授）、今井貴代子さん
（大阪大学 SSI 特任助教）/当法人事務局スタッフ 7 名

6) その他

富田地区、市域広域事業の研究を深めるべく大阪大学や近隣の大学の研究者や大学院生を富田地区の学校等へつなぐとともに協働実践・研究を行いました。

Ⅲ. 協働交流事業

1) 市域全域包摂のネットワーク構築事業

これまで当法人では富田地区（四中校区）を対象に「ただいま～と言える子どもの居場所づくり」事業を立ち上げ、地域、学校、行政、企業、大学との連携のもと社会的不利を抱える子どもをはじめ校区に住む誰もが参加できる居場所づくりと家庭の包括支援を目指してきました。

2021年度これらの実績を踏まえ富田地区が長年培ってきた社会的不利を抱える子どもたちや住民の支援のノウハウを市域全域へと広げ市域に民と民、官と民の連携による包摂のネットワークを構築することに着手しました。

① 高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業（厚労省事業 支援対象児童等見守り強化事業）

高槻市が「支援対象児童等見守り強化事業」（厚労省）として行った「高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業」を2021年度以降、毎年に取り続き受託し以下の事業を行いました。

ア. 業務の概要や実施体制

- ・業務内容：未就園児等（保育所・幼稚園等に通っていない原則2歳児から就学前の子ども）のいる家庭等を訪問し状況の把握や学習及び生活支援等を通じた子どもの見守りを実施する。
 - ・実施期間：2024年7月1日から2025年2月28日まで
 - ・実施体制：事業管理者・訪問員として専門職（保育士、社会福祉士等）を配置
 - ・担い手の発掘と育成：実施にあたり長年市立の保育所に従事してきた所長や副所長経験者などのベテラン保育士や市の社会教育委員、市民活動を担ってきたメンバー8名をメンターとして迎え、市内全域から子育て層（保育士等）の人材を発掘し総勢29名でアウトリーチ（家庭訪問）を実施しました。
 - ・対象家庭544件（5歳児11件 4歳児16件 3歳児89件 2歳児428件）
2歳児のうち訪問希望家庭81件/希望はないが、何らかの返答があった家庭174件（うち具体的な情報があった家庭67件）
- 訪問対象家庭数 197件（2歳児希望家庭+3～5歳児）
○保護者面会家庭 153件（延訪問回数187件）

イ. 相談件数の種類と各件数

※個人情報保護のため詳細についての記載は省略

相談の種類	主な内容	件数
基本的な生活習慣の習得支援や学習および生活支援について	具体的には児童の発達や障がい、トイレトレーニングの方法など子どもの成長における悩み事への対応や保護者にとっての相談相手やその機関、協力者やサポート体制の有無など	7件

地域の様々な支援事業へのつなぎ	「つどいの広場」やホームスタートへのつなぎや訪問員による伴走支援、「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」との連携による「市内子ども食堂等の居場所の一覧マップ」の配布や紹介、厚労省ひとり親等の子どもの食事等支援事業と連動した支援パックの配布など	46 件
訪問後支援について	保護者が家庭内で孤立していた状況から訪問員が傾聴すると思わず涙を流され子育ての悩みなどの話をされるなどしたこと、そのような様子から訪問後支援につながった事例があった。 また、訪問の時点では、支援を希望されても、実際に訪問の約束をする際には、必要ないとなるケースも数件あった。	3 件

ウ. 訪問員研修の実施

日 付	研 修 名	参加人数
7 月 4 日 (木)	従事者の顔合わせ・事業概要の共有 講師：タウンスペース WAKWAK 事務局長 岡本工介 氏	19 名
7 月 4 日 (木)	「言葉が心配、発達が心配、と言われたら」-発達相談について- 講師：北摂総合病院（小児科・心身症外来）臨床心理士 長澤華奈氏	22 名
7 月 11 日 (木)	マニュアルの共有・訪問の際に気をつけること 講師：元高槻市立保育所所長・副所長 甲斐田美智子・磯部恵子氏	16 名
7 月 11 日 (木)	「高槻市の子育て支援施策」 講師：高槻市子育て総合支援センター職員 長尾氏	14 名
7 月 12 日 (金)	「絵本を通して」（アレンジバージョン） 講師：元高槻市立保育所所長 甲斐田美智子氏	20 名
7 月 12 日 (金)	「見守り訪問について」（4 年目をむかえて） 講師：元高槻市子育て総合支援センター副主幹 田村みどり氏	18 名
7 月 18 日 (木)	地域資源を共有する（WAIWAI カフェ/冊子の確認） 講師：高槻市社会教育委員 山本外志子氏	13 名
7 月 18 日 (木)	育児負担が高い親に対しての話の聴き方と事業の進め方について 講師：有限会社ケーアイピーピー 京都文教大学教授 川畑直人氏	19 名
7 月 19 日 (金)	「高槻市子どもみまもり・つながり訪問」訪問員研修 講師：高槻市子ども保健課 保健師 由留部氏・安藤氏	19 名
3 月 3 日 (月)	ふりかえり研修（事業総括） 講師：高槻市療育園 臨床心理士・発達臨床心理士 根元佳子氏	21 名

（３） 個人情報の保護について

個人情報保護にかかる研修の実施状況

日 付	研 修 名	参加人数
7 月 11 日 (木)	マニュアルの共有・訪問の際に気をつけること 講師：元高槻市立保育所所長・副所長 甲斐田美智子・磯部恵子氏	16 名

その他特記事項：新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点からの研修は対面およびオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式で行ったほか、欠席者については動画配信にて研修内容の共有を徹底。なお、上記の参加人数は当日の参加者の人数であり、動画配信は含んでいません。

② 高槻市域全域を対象とした民と民、官と民の連携による包摂ネットワークづくり

2021 年度、認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえが資金分配団体として行った「居場所の包括連携によるモデル地域づくり（全国）」の財源をもとに構築した高槻市域における地域の居場所の民・民連携、行政との官・民連携による包摂のネットワークの取組を発展・充実化させるため 2024 年度は内閣府他「子どもの未来応援基金」助成を活用し以下の事業を実施しました。

ア. 事業の概要

・事業概要：新型コロナ禍の影響、物価高により社会的不利を抱える子どもや家庭に一層の不利がかかる中、地域に潜在する声なき SOS を発見し、地域全体で支えることを目的に、学び・食・生活・制度への伴走支援を一体的に実施し、かつ要支援家庭の包括支援の受け皿となる地縁組織、学校、行政等の小地域ケアネットワークの仕組みを創る。これら多様な分野の支援団体との相互連携や包括支援を行うことで、民と民、官と民による誰も取りこぼさない地域を生み出す。並行して行政との連携により制度へとつなぐことで官民連携の仕組みを創設。これらを通じて得られた知見を大学等との協働研究により明らかにし、かつメディア等を通じて広く他地域へと波及する。

イ. 地域から広がる第三の居場所ネットワークの開催

2021 年 11 月 20 日（土）にアクションネットワークを発足、回を重ねながら名称や方向性等を決め、通算で 17 回会を開催しました。ネットワークは 2025 年 3 月 31 日時点で 86 団体、150 名を得ることができました。また、分野も地域の諸団体や支援団体をはじめ学校、大学、企業、宗教関係、医療関係に至るまで分野を超えた包括的なネットワークを築くことができました。

i. (アクションネットワーク参加者の内訳)

※2025 年 3 月 31 日時点

セクター分類	団体数（団体）	参加人数（名）
市民活動団体	48	88
企業	8	14
大学・学校	5	19
宗教関係	4	6
医療関係	4	6
個人	17	17（うちオブザーバー3）
合計	86 団体	150 名

ii. ネットワークの趣旨、機能、方向性等

名称：「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」	
趣旨	高槻市内において子ども分野をはじめ多様な活動を行う団体、企業、大学、学校、行政、個人等の関係者が一同に会し、顔を合わせ、情報交流をする中でゆるやかなネットワークを築く。
会の 3 つの機能	①ネットワーク間の顔がつながる ②情報交流と助け合い ③支援構築に向けたアクション

会の方向性	①「民」（民間だからできるアクションを進めながら将来的には「官庁」（行政ほか）とも協働する。 ②コロナ禍、緊急性の高い社会的不利層への支援からはじめ様々な層へ広げる。 ③子ども分野からはじめ障がい、高齢、外国人支援分野等へ広げる。（包括的な支援）
具体的な動き	①団体さん同士それぞれの動き ヒト・モノの交流や協働等 ②事務局主導の支援構築の実践

iii. 地域から広がる第三の居場所アクションネットワークの開催

	日時	場所 形式	参加者数	内容
第 15 回	6 月 29 日（土） 10 時～12 時	対面・ZOOM クロスパル 高槻	33 名	新規団体紹介 団体間の交流 これまでの取組と 2024 年度の方向性
第 16 回	9 月 28 日（土） 10 時～12 時	ZOOM	26 名	ネットワーク団体さんそれぞれの動き 事務局による支援構築の動き
第 17 回	12 月 14 日（土） 10 時～12 時	ZOOM	22 名	ネットワーク団体さんそれぞれの動き 今年を振り返って一言でいうなら 事務局による支援構築の動き

ウ. 校区包括支援ネットワークの構築

富田エリアにおいて行ってきた関係機関が連携して子どもから高齢者を支えるネットワークを他校区にも広げるべく、2024 年度は市内の 4 エリアに入り込み、地元の諸団体、学校等と連携しながら要支援家庭の包括支援のためのケアネットワークを地元のキーマンと構築し、伴走しながら運営支援にあたりました。

エ. 企業との協働による食支援の構築

i. 第 2 期「食の応援定期便」

食支援を市域全域に広げるべく地元企業「株式会社ミートモリタ屋」「株式会社宮田運輸」からご支援を頂き、第 2 期となる「食の応援定期便」を開催しました。市内全域の子どもを対象に食支援を実施する団体（子ども食堂に限らない）やフリースクール等の 8 団体へ食材やデザート等の提供および運輸を実施しました。

- ・企業からの支援内容：カレーの食材やデザート等の提供
- ・提供数：820 食

ii. サンユレックにつこりプロジェクト

「サンユレック株式会社」より市内全域の子どもを対象に食支援を実施する団体（子ども食堂に限らない）やフリースクール等に第 1 弾（10 月）お菓子パック 300 セット、第 2 弾（12 月）にクリスマスホールケーキ 53 個を提供いただき、11 か所のべ 576 人の子どもたちに想いを届けました。

オ. 要支援家庭の子ども・家庭への食・生活・制度への伴走支援の実施

市域全域のネットワークの中で生活困窮家庭をはじめ社会的不利を抱える層が集住する市内公営住宅 5 エリアにおいて活動する子どもの居場所を運営する団体に呼びかけ、それぞれの活動場所において食材配布を行いました。

- ・時期・回数：2024 年 9 月・12 月・3 月の年に 3 回
- ・場所：当法人所有のコミュニティスペースおよび市内各所で子どもの居場所を運営する団体の活動場所（桜

台エリア、七中エリア、六中エリア、市内東部エリア 5 エリア)

- ・通算で食支援 525 セット配布
- ・対象者層・人数：生活困窮家庭・ヤングケアラー・ひとり親家庭等 のべ 1,575 人

カ. 学びの支援

市域全域のネットワークと協働しコミュニティスペースを拠点に大学生(将来、教員や福祉職をめざす学生)と支援を要する子どもをオンラインでつなぎ個別の状況に合わせたケアおよび学習支援を行いました。

- ・時期・回数：2024 年 5 月～・週 1/春休み 3 月 週 3 (計 56 回)
- ・場所：当法人所有のコミュニティスペース
- ・対象者層・人数：要支援の児童等・のべ人数 840 人/大学生のべ 672 人

キ. 大学等との協働研究による要支援状況の可視化および他地域への波及

大学の研究者(同志社女子大学新谷准教授)と協働し、市域全域のネットワーク「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」の協力を得て市内におけるこども食堂等の団体の状況をアンケートやヒアリングを通して明らかにしました。これらをバックデータとして実践報告会で提言を行いました。

※当アンケートについてはアニュアルレポートにも掲載し紙ベースの報告書と当法人の HP において公表しています。これらをもとに今後広く全国へ発信・波及を促すことを予定しています。

- ・時期・回数：2025 年 2 月 2 日から 2 月 25 日
- ・場所：高槻市内各所(質問市長および WEB 回答/子ども支援団体へのヒアリング)
- ・小学生以上 9 箇所 141 人分(全て質問紙)
- ・保護者、地域住民、学生スタッフ 8 箇所 111 人分(内, Web 1 箇所 12 人)
- ・運営者 14 箇所(内, web5 箇所) ※期間内回収分のみ
- ・インタビュー 4 箇所

ク. 行政及び市議会議員へのアドボカシー活動

市域におけるアクションネットワークの活動の必要性やキで得られた調査研究の結果をバックデータとして実践報告会で報告・提言しました。また、党派を超えた個別の議員(市議会議員)に対してもロビー活動を行い、これまでを通して高槻市議会定数 33 名のうち 22 名の議員に対し支援の必要性について個別アドボカシー活動を行いました。

- ・時期・回数：2024 年 4 月～随時
- ・場所：高槻市役所および実践報告会、タウンスペース WAKWAK 事務所
- ・内容：高槻市長への表敬訪問
今年度新たに 6 名の市議会議員に対しアドボカシー活動
高槻市子育てを所管する課 2 課および社会福祉協議会との協議 計 8 名

ケ. 子どもの貧困について学ぶ学習会・実践報告会の開催

当法人と高槻市市民公益活動サポートセンターが協働し、子どもの貧困について学ぶ学習会および当事業の実践報告会を実施しました。

i. 子どもの貧困について学ぶ学習会

- ・日時：8 月 22 日(木)
- ・形式：オンライン ZOOM
- ・テーマ：「子どもの貧困や体験格差」について
- ・講師：山科醍醐子どもの広場元理事長村井琢哉さん
- ・参加者：38 名

ii. ひとりぼっちのいない町をつくる 実践報告会

- ・日時：3月8日（土）
- ・場所：クロスパル高槻
- ・内容および講師：①武庫川女子大学志水宏吉教授による講演、②同志社女子大学新谷准教授による市内子ども食堂等の調査結果報告、③当法人による市内全域の支援の様子について報告
- ・参加者：80名

③ 子ども家庭庁ひとり親等の子どもの食事等支援事業

新型コロナ禍、ひとり親家庭をはじめ様々な社会的不利を抱える家庭に支援が必要とされる中、子ども家庭庁が緊急支援事業として行った「ひとり親等の子どもの食事等支援事業」について、分配団体認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえおよび子ども宅食応援団から受託、実施しました。

ア. 子ども家庭庁事業目的

新型コロナウイルス感染症の影響等により困窮するひとり親家庭を始めとした、要支援世帯のこども等を対象に、食事や食品・食材、学用品、生活必需品の提供を行うこども食堂やこども宅食、フードパントリー等を実施する事業者に対して、広域的に運営支援、物資支援等の支援を行う民間団体の取組を支援することにより、こどもの貧困や孤独・孤立への緊急的な支援を行うことを目的とする。

イ. 当法人申請事業概要

「要支援家庭の声なき SOS を発見し、地域支援の循環につなぐ事業」

・事業概要：コロナ禍・相次ぐ物価高の影響で困窮する世帯の多いひとり親家庭や生活困窮家庭、福祉の援助が届きにくい家庭、海外ルーツの家庭など地域の中で制度から取りこぼれやすかつ社会的不利を被りやすい子ども・家庭を支援するため高槻市域全域（人口 35 万）を対象に①ひとり親家庭や生活困窮家庭等が多く集住する公営住宅 5 エリアおよび②子ども家庭庁支援対象児童等見守り強化事業のアウトリーチ、③未就園児や要支援家庭にアウトリーチを行う市子ども保険課や子育て総合支援センターと連携し要支援家庭を対象に生活支援（食支援、生活必需品等配布）を行う。また、これまでに構築してきた市域全域ネットワークおよび各エリア（中学校区）ごとで活動する子ども食堂運営者や地域・学校・医療関係者と協働し実施することで民と民、官と民の協働による支援のスキームを構築し当助成後も各地域において支援の継続性や地域支援の循環につなげることを目的とする。

ウ. 事業内容及び成果

- ・支援内容：市内全域での食材支援パック（お米やレトルト、ゼリーなどを 1 セットにしたもの）の配布
浄土真宗島上西組によるほっとけ米プロジェクト（お米 6 合を 400 セット寄贈）の配布
- ・支援実施個所：のべ 45 か所
- ・支援総数：14,520 食/3.7 トン
- ・協働団体：高槻市子育て総合支援センター/高槻市子ども保健課/高槻市社会福祉協議会
桜台エリアネットワーク（しらかわ・いもとクリニック・NPO 法人みらい咲かそ・みんな食堂・そんぼの家子ども食堂・堤コミュニティセンター他）/七中エリアネットワーク（きよさきあーちゃん食堂・キニナル・NPO 法人キャンバス他）/六中エリアネットワーク（できたよできたおべんとうの会・ふれあい食堂他）/NPO 法人三島子ども文化ステーション/NPO 法人 SEAN/NPO 法人ファミカ/NPO 法人はらいふ/えん食堂つむぎ/川添こども食堂/アッテモこども食堂 他

- ・成果：当事業の受託も3年目となる中、官民連携をより進めていくため今期はとりわけ官（行政）や社協との連携に力を入れました。具体的には未就園児や要支援家庭にアウトリーチを行う市子ども保健課や子育て総合支援センター、社会福祉協議会との協議を行い、協働関係を生み出すことで実際に行政や社協のアウトリーチの際に要支援家庭があった際に当事業へとつないでもらう仕組みが構築できました。また、浄土真宗によるほっとけ米プロジェクト（お米の寄贈 6合を400セット提供）やコニカミノルタによるフードドライブやふーどばんく OSAKA との連携による支援など複数年の受託により市域全域に多様な支援の層の裾野が広がってきたことを実感できました。また、各エリア（中学校区）ごとで活動する子ども食堂運営者や地域・学校・医療関係者と協働することを通して、中核市規模での民と民、官と民による協働による重層的な支援の仕組み（支援のひな型）が徐々にできつつあります。

4) 子ども食堂の応援を通じた小地域包括支援ネットワークづくり事業「わくわく基金」の創設

市域全域に対するネットワーク化「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」（市域単位での民と民、官と民の連携）と並行して、小地域単位（小・中学校区）のセクターを超えた包括支援ネットワークの構築を活性化するため「むすびえ子ども食堂基金」を受託し、昨年度、助成事業「わくわく基金」を創設し、学識者等による審査会を開催し、市内で活動する5団体を採択。今年度にわたって事業を実施しました。

①事業目的

当事業を通じ実現化したいのは各地域単位（小学校区単位）での子ども食堂運営団体・地縁組織・学校・企業等の包括支援の仕組み（モデル）づくりとそれを支える各地域でのキーマン発掘・ハブとなる団体育成、持続可能な仕組みの構築である。当事業の申請はそれらの動きに助成事業というスキームを通じてドライブをかけ、市域全域に包摂モデルを広げることが目的である。

②事業期間

2023年12月1日～2024年11月30日

③ 2023年度～2024年度事業経過

- ・2023年12月：法人内に当事業のプロジェクトの立ち上げと準備, 助成事業選定委員への打診・打ち合わせ
- ・2024年1月：学識者、弁護士等による助成事業選定委員会の発足
- ・2月1日 わくわく基金募集要項公開
- ・2月5日：助成事業募集開始（2024年2月5日(月)～2月19日(月)17:00 必着）
- ・2月8日（木）オンライン説明会開催（10団体が参加）
- ・2月19日（月）募集締め切り（8団体が申請）
- ・2月中旬～：助成事業第1次審査（書類選考）, 2次選考（事務局ヒアリング）
- ・3月11日（月）：最終選考（選定委員会、法人代表理事による助成先決定）採択団体5団体
 - 審査委員長 三木正博（地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク座長）
 - 審査委員 新谷龍太郎（同志社女子大学現代社会学部現代こども学科 准教授）
 - 審査委員 今井貴代子（大阪大学社会ソリューションイニシアティブ 招聘教員）
- ・4月1日～ 採択団体5団体活動開始
- ・4月～ 各助成団体事業開始
 - ※事業統括・助成先団体随時伴走・各小地域包括支援ネットワーク会議への参加等
- ・7月19日 助成団体中間報告会の開催（事業の進捗確認および下半期の予定の共有）（ZOOM）
- ・11月20日 助成先実績報告書提出〆切→事務局確認→12/10 修正版実績報告書〆切

④ 採択団体

- ・NPO 法人三島子ども文化ステーション
- ・NPO 法人みらい咲かそ
- ・NPO 法人ファミカ
- ・キョサキあーちゃん食堂
- ・できたよできたお弁当の会

⑤ 実施内容および成果

ア. 助成団体5団体を通じて子ども食堂・フードパントリー等の実施により支援を実施しました。

- 支援数計：のべ3,872人
- 支援か所数：14か所
- 参画ボランティア数：のべ894人

イ. 助成団体5団体それぞれが各地域でコアとなり地域性に応じた小中学校区単位での小地域包括支援ネットワークを形成し包括支援の仕組みを生み出しました。

- 参画団体数（実数）計 54団体、会議等の開催回数 23回
- 参加者数：217人

ウ. 小地域ネットワークにおける団体間の協働の取り組みとしてフェスティバルの開催や地元のイベントへの小地域ネットワークとしての参画などを行い連携を深めた。

- 小地域ネットワーク主催イベント：実施9回、参加者 のべ913人
- 地元イベントへのネットワークとしての参画：4回

エ. 社会資源などを可視化するため小地域ネットワークによる小学校区における子ども食堂等支援団体マップの作成および学校・行政等への情報提供・配布を行いました。

- マップ数：4小学校区

オ. 実践報告会を開催し広く市民や行政、各級議員に小地域包括支援の実践報告会を行い理解の促進を図りました。

- 11/23 むすびえ子ども食堂基金実践報告会開催
 - ・場所：クロスパル高槻 視聴覚室
 - ・内容：記念講演（講師：キリンこども応援団 水取博隆氏）
助成団体5団体による実践報告
 - ・参加者：60名

⑥ 受益者数総数

- ・総数 5,956人
- ・支援受益者総数 5,679人
- ・子ども食堂等運営者（ボランティア含む）894人
- ・子ども食堂等参加者 4,785人
- ・小地域ネットワーク 参加者数：217人
- ・実践報告会参加者数：60人

5)大阪府子ども食堂ネットワークの構築

中間支援の新たな動きとして 2022 年度に携わった大阪府域を対象とした大阪府子ども食堂ネットワークの運営に協力しました。ここでは、産官民学が共創するネットワークの立ち上げと定着化をめざし大阪大学とともに協働事務局を担いました。また、大阪府や大阪府社会福祉協議会などをはじめとする自治体や社協、中間支援団体等で構成される世話人と協議を重ね連絡会を運営しました。今期は、高槻市域における実践について報告も行いました。

- ・日時：9 月 26 日 大阪府子ども食堂ネットワークシンポジウムにて実践報告（対面）
- ・内容：大阪府子ども食堂ネットワークが主催する「地域ではぐくむこどもと未来」シンポジウム（第 1 部 講演 湯浅誠さん・第 2 部 市町村における中間支援の事例報告）
※第 2 部において高槻市域における小地域包括支援ネットワーク等の報告を行いました。

6) ネットワーク構築、他団体との協働

WAKWAKが実施する各事業において、地域社会とのネットワーク構築、市民活動団体相互および市民・事業者・行政との連携、協働促進事業について以下のとおり実施しました。

① さにすば夏祭り

日時：7月22日（土） 午前10時～午後3時

場所：知的障がい者福祉事業所サニースポット

② 富田富寿栄盆踊り大会

日時 9月2日（日） 午後5時～午後9時

場所 三角公園

来場参加数：1,600名

③ NPO協働フェスタ

日時 9月10日（日）午前10時～午後3時

場所 高槻市生涯学習センター

④ フェスタ・ヒューマンライツ

日時：12月3日（日） 午前10時～午後1時

⑤その他

ア．富田まち・くらしづくりネットワークおよび富田地域包括支援センター/コミュニテイケア会議、富田富寿栄連自治会諸活動への参加を通して、地域福祉やまちづくり運動への参加と連携を図りました。

イ． 市民公益活動サポートセンターの諸活動への参加を通して、市内NPO団体等との連携を図りました。

IV. 新たな福祉と人権・協働のまちづくり事業

1) 地域福祉グランドデザインづくり事業

①未来にわたり住み続けたいまち高槻富田地区コミュニティ再生事業

・趣旨：高槻市による市営住宅の建て替えをはじめ「富田地区まちづくり基本構想」の流れに並行して、2019年に当法人として未来にわたり住み続けたいまち高槻富田地区コミュニティ再生事業を立ち上げました。2019年度はフェーズ1「市営住宅の建て替えに多様な層の声を届ける」事業を実施し、2021年度は引き続きフェーズ2「長期的なコミュニティの再生」を目的に地域・家庭・学校・行政・大学・企業等多セクターとの共創の仕組みとして「富田地区インクルーシブ・コミュニティ・プロジェクト」を立ち上げ、プロジェクト1「コミュニティ・スペースの創出」とプロジェクト2「教育コミュニティづくり」の2つのプロジェクトに取り組みました。

高槻市の施策においては、2021年度末をめどに公共施設再配置および小中一貫校設置を柱とする「富田地区まちづくり基本構想」策定をめざしていましたが、富田小地域を候補地とする構想案への部落差別を背景とした反対運動により小中一貫校設置構想は凍結となりました。結果、「富田地区まちづくり構想」は2022年5月に公共施設再配置を柱とした構想として策定されました。

一方、富寿栄住宅建替え事業については2022年12月に第一期工事の本格着工に至り、2023年9月には第一期入居〈91戸〉が実施されました。

これらの動きに合わせ2024年度は2か年目となるWAM助成を通じて「子どもから高齢者までの切れ目のない支援事業」を地域の様々な担い手の方々と共に多岐にわたる事業をチャレンジングに実施しました。

ア. 多セクターとの共創の仕組みとしてインクルーシブコミュニティプロジェクトの立ち上げ

当法人が協働を行ってきた多セクターへ呼びかけ地域関係者、学校関係者、大学関係者（研究者、大学院生・学部生）等によるプロジェクトを発足し多セクターによる社会課題解決のプラットフォームを生み出しました。

（富田地区インクルーシブ・コミュニティ・プロジェクトの構成・参画団体）

セクター	参画団体等
座長	大阪大学大学院人間科学研究科 教授 志水 宏吉
学識者	大阪大学大学院人間科学研究科 教授 渥美 公秀
	大阪大学大学院人間科学研究科 教授 高田 一宏
	大阪大学社会 SSI 特任助教 今井 貴代子
	関西大学文学部 教授 若槻 健
	関西大学社会学部 教授 内田 龍史
	同志社女子大学 准教授 新谷 龍太郎
	平安女学院大学 助教 相楽 典子
	京都女子大学 教授 岩槻 知也
弁護士	NPO 法人子どもセンターぬつく 代表 森本 志磨子
○地 域	富田支部、富田まちくらしづくりネットワーク、富寿栄老人会、社会福祉法人つながり、民生委員・児童委員
○大 学	大阪大学、関西大学、同志社女子大学、平安女学院大学
○行 政	高槻市立富田ふれあい文化センター、富田青少年交流センター
○幼 保 学 校	高槻市立第四中学校・赤大路小学校・富田小学校・富田認定こども園 ※四中校区による総合的な学習の時間「いとみらい科」の協働や子ども第三の居場所連携等

○医 療	医療法人光愛会
○オブザーバー	日本財団子ども支援チーム
○事務局	一般社団法人タウンスペース WAKWAK

(プロジェクト会議)

	日時	場所 形式	参加者数	内容
第 1 回	5 月 20 日 (月) 16 時半～18 時	ZOOM	40 名	顔合わせ・自己紹介 昨年度事業報告 富田エリア事業・市域エリア事業の方向性 日本財団子ども第三の居場所の創設について ※日本財団子ども第三の居場所開所式と同時開催
第 2 回	11 月 19 日 (火) 16 時半～18 時	ZOOM	26 名	プロジェクト新メンバー紹介 プロジェクト進捗状況 (事業中間報告) 下半期事業の方向性について 事業評価・意見交流
第 3 回	2 月 25 日 (火) 16 時半～18 時	ZOOM	24 名	プロジェクト報告 (2024 年度事業) 事業総括 (評価・意見交流) 次年度以降のプロジェクトの方向性

イ．A 棟自治会への支援

2023 年 9 月富田富寿栄住宅 A 棟が完成し、9 月中に入居者の引っ越しを終えました。

これに伴い、住民自治の仕組みを再生するため当法人が伴走し自治会の担い手の発掘や自治会の設立支援を行いました。自治会役員が中心となってより良い住環境を守るためにゴミの出し方やゴミ置き場の清掃を意識し、安心安全に暮らしていけるように活動するための運営支援を行い、タウンスペース WAKWAK と事務受託契約を結び活動を進めてきました。2023 年 10 月 14 日には A 棟自治会が新たに設立され、90 世帯全員の自治会入会と会費徴収が実現しました。

i．富田富寿栄住宅 A 棟自治会設立総会開催

- ・日時：3 月 30 日 (日)
- ・場所：富田ふれあい文化センター地下小ホール
- ・総会出席：55 世帯

ii．役員・班長会議の開催

自治会役員・班長は毎月 1 回会議を開催し、住民のゴミ問題や自治会に関わる問題について話し合う場を持ちました。

iii．A 棟入居者一斉お掃除大作戦

住民協力のもと、住宅入口広場や各階の階段、エレベータ内を一斉に清掃活動を行いました。

- ・日時：5 月 26 日 (日)・11 月 26 日 (日)
- ・参加人数：5 月 26 日 (日) 43 世帯・11 月 26 日 (日) 49 世帯

iv．富田富寿栄住宅新春交流会開催

- ・日時：1 月 11 日 (土)

- ・場所：富田ふれあい文化センター地下小ホール
- ・内容：グループワーク、ビンゴゲーム、天光軒新月さんによる講演および「葛の葉白狐伝」の音頭披露
- ・参加者：29名

②子どもから高齢者までの切れ目のない支援を生み出す事業

富田地区のハード面が大きく変わっていくことと並行し、ソフト面を充実するため2か年目となるWAM助成を通じて「子どもから高齢者までの切れ目のない支援事業」を地域の様々な担い手の方々と多岐にわたる事業をチャレンジングに実施しました。

ア. 申請事業概要

子どもから高齢者までの切れ目のない支援を生み出すことを目的に、地縁組織から大学生までの多様な担い手と協働し既存事業の活性化、新規事業を創設し、子どもから高齢者までの一連の支援を生み出す。また、地縁組織、学校、行政、企業、大学等多セクターによるネットワーク化を行い、多様な分野の支援団体との相互連携や社会的不利を抱える層の包括支援を行うことで、民と民、官と民による誰も取りこぼさない地域を生み出す。また、並行して行政との連携により制度へとつなぐことで官民連携の仕組みを創設。これら実践を通じて得られた知見を大学等との協働研究により明らかにし、かつメディア等を通じて広く他地域へと波及する。

イ. 事業実施内容

i. 子どもの居場所づくり

- ・目的 ケア付き食堂として生活困窮をはじめ福祉的なケアが必要な子どもたちを対象に行ってきた子ども食堂（新型コロナにより休止）を子どもたちの自立の観点から、子どもたちも料理をつくり、食を共にする事業および学習支援へとリニューアルして実施する。風の子主催者や子育て層のボランティアに中心となっていていただき、ハロウィンやクリスマス会、お泊り会、六年生送る会など不定期でさまざまな文化に触れるイベントを開催しました。
- ・内容 2回（4月10日開始～3月末）土曜日・日曜日、年24回
- ・場所 空き家を改装したコミュニティスペース NikoNiko（富田町）および檜田地区
・場所：コミュニティスペース NikoNiko
- ・対象者：第四中学校区の小中学生
- ・参加人数：延べ人数 614人、実人数 26人
- ・協力：風の子文庫

ii. 子育てサークル

- ・目的・内容：地域の子育て層を対象に発達障がいのある悩みや子育ての困りごとなどをともに分かち合える場をつくりベテラン保育士や文庫主宰者等の女性を中心となって子育て層を対象に読み聞かせや文庫活動を行いました。併せて、子育ての困りごとや悩みごとに対し支援を行いました。
- ・日時および回数：実施回数 週1（5月8日開始～3月末）開催、年42回
- ・場所：コミュニティスペース NikoNiko
- ・対象者：地域に住む子育て層
- ・参加人数：地域に住む子育て層（子育てに悩みのある）とりわけお子さんに発達障がいのある子育て層が広く参加 ①保護者（子育て層）延べ421人、実人数12人 ②就学前の子ども 延べ168人、実人数4人

- ・協力：風の子文庫

iii. 「高齢者見守り事業」（高齢者）

- ・目的・内容：主に市営住宅の独居高齢者を対象に地域内での孤独化や孤立（孤独死）を防ぎ、生きがいと出番をもって生活できるよう地元老人会と協働し、定例の交流会（茶話会）及び季節ごとの交流会、見守り活動（アウトリーチ）を行いました。
- ・日時および回数：定例会：毎月 1 回（第 2 木）、12 回、交流会：5 日（9/19・20 日、2/1 日、3/18・19 日）、見守り：143 件
- ・場所：コミュニティスペース NikoNiko ほか
- ・対象者：おもに市営住宅に住む高齢者
- ・参加人数：○定例会：延べ 96 人・実人数 8 人、○交流会延べ 204 人、実人数（9/19・20 日 62 人、2/1 日 42 人、3/18・19 日 72 名）見守り：143 件
- ・協力：富寿栄老人会

iv. 「わくわく広場」（大学生）

- ・目的・内容：将来、教員や福祉職等をめざす大学生が主体となって小学生を対象にしたイベントを企画し、実施する中で対人援助職としての実践経験を積み、さまざまな背景を持つ子どもたちに寄り添うためのノウハウを学ぶことを目的に専門家（社会福祉士）による対人援助職の系統的な研修の実施および研修の一環として大学生が主体となって小学生を対象にしたイベントを企画・運営しました。
- ・日時および回数：研修 2 回および実践 2 回（2024 年 9 月 21 日、10 月 25 日、11 月 16 日、2025 年 3 月 1 日 いずれも 9 時～17 時）
- ・場所：①研修：コミュニティスペース NikoNiko（富田町）
②実践：市内の児童養護施設（聖ヨハネ学園）および富田町にある公園
- ・対象者：将来、教員や福祉職等をめざす大学生
- ・参加人数：教員等をめざす学生 学生：延べ人数 31 人・実人数 8 人
小学生：延べ 43 人、実人数 23 人 ※就学前の児童も参加
- ・協力：近隣の大学

v. 「わくわく World」（海外ルーツ）

- ・目的・内容：海外留学生との交流を通じて、子ども達が海外ルーツの人に対する理解や交流を促進することを目的に大阪大学と連携し、海外留学生と子どもたちがイベントを通して交流する場をつくりました。国籍として、インド、中国、ベトナム、インドネシア、マレーシア、オランダ、フィジー、フランス、ミャンマー、ラオスなど多様な留学生が参加し、また、イベントごとの料理もそれぞれの国にちなんだ料理をつくるなど子どもたちが多様な文化に触れる体験を行いました。
- ・日時および回数：年に 4 回（6/22・10/13・12/15・2/9）
- ・場所：コミュニティスペース NikoNiko
- ・対象者：留学生、大学生、小学生、就学前
- ・参加人数：留学生のべ 32 人・実人数 8 人、大学生延べ 16 人・実人数 4 人、就学前・小学生および保護者のべ 90 人・実人数 23

- ・協力：大阪大学

vi. 生活応援支援（全住民・要支援者）

- ・目的・内容：市営住宅における生活困窮家庭等の要支援者を対象に緊急食糧支援を行い、生活応援を行う。
また、要支援者のリストアップおよび状況把握を行い支援の継続につなぐことを目的に食料等の配布と要支援者のリストアップ・状況把握を行いました。
- ・日時および回数：年3回6日間（7/29・30・31・10/27・2/25・26）
- ・場所：富寿栄西公園、富寿栄A棟エントランス、社会福祉法人つながりサニースポット・タウンスペース WAKWAK 事務所
- ・対象者：食支援希望登録者
- ・参加人数：のべ585人・実人数65世帯
- ・協力：富田まち・くらしづくりネットワーク、解放同盟富田支部、富寿栄連合自治会、富寿栄老人会、富寿栄住宅入居者委員会、社会福祉法人つながり、タウンスペース WAKWAK の7団体

vii. まなびカフェ（全住民）

- ・目的・内容：地域住民及び学校・施設関係者が様々な社会課題について学びや理解を深めることを目的に様々な社会課題についてカフェ形式で学ぶ講座の開催を行いました。
- ・日時および回数：4回（6/8<午前・午後2回>・7/13・9/29・3/6）
- ・場所：コミュニティスペース NikoNiko・富田青少年交流センター
- ・対象者：①6/8 児童及び保護者
②7/13 子育て層の保護者
③9/29 子育て層の保護者
④3/6 子育て層の保護者
①36人、②24人、③12人、④10人 のべ82人

viii. ワンストップ相談支援（CSW 事業）（全住民・要支援者）

- ・目的・内容：子どもから高齢者までの困りごとをワンストップで解決する仕組みを構築することを目的に従来の当法人におけるワンストップ相談に加え、市営住宅の建替後の移転等により家賃、引っ越し、生活の変化による不安や困りごとに対応するため出張相談会を開催しました。また、昨年度当法人が住民と協働で行った自治仮設立後の自治会運営の支援（役員会への同席や課題発生時の行政との連携など）を毎月（役員定例会）および相談の随時対応も新たに行いました。
- ・日時および回数：①随時実施、②年6回（7/29・30・31、10/27、2/25・26）、③自治会役員定例会の実施（毎月12回、相談受および行政との連携随時）
- ・場所：①タウンスペース WAKWAK 事務所、②出張相談会：富寿栄西公園、富寿栄A棟エントランス、社会福祉法人つながりサニースポット
- ・対象者：全住民
- ・相談件数：①相談件数：262件②相談件数：38件③役員定例会：のべ52人

2) 生きがいと居場所づくり事業

①ボーダレスアート事業

ア. ボーダレスアート教室「わんだーぼっくす」の開催

- ・日時および受講者数：前期開講：5月～10月（8月は休み）の月2回 12名受講
後期開講：11月～3月の月2回 13名受講
- ・場所：青少年交流センター2Fレッスンルーム
- ・後援：高槻市・市教育委員会、高槻市社会福祉協議会、社福つながり・つながり後援会

イ. Takatsuki Art Challenge展への出展協力

- ・日時：2月13日（木）～16日（日）
- ・場所：高槻城公園芸術文化劇場
- ・来場者数：約800人
- ・主催：高槻市・公益財団法人高槻市文化スポーツ振興事業団

ウ. ボーダレスアート展「わんだーぼっくす」の開催

- ・日時：12月1日（日）～2日（月）
- ・内容：わんだーぼっくす受講生作品およびTakatsuki Art Challenge展出展作品
社福ノーマライゼーション協会西淡路希望の家（協力出展）
- ・入場者：239名
- ・後援：高槻市・市教育委員会、高槻市社会福祉協議会、高槻市人権まちづくり協会、社福つながり・つながり後援会、フェスタ・ヒューマンライツ2024実行委員会

3) ひとりぐらし高齢者・障がい者・若者支援事業

①地域支え合い事業

これまでひとりぐらし高齢者および高齢者世帯への食事や買い物、家事支援、安否確認、心のケア等様々な地域における社会的支援の仕組みづくりを構築することを目的に実行委員会立ち上げと「高齢者のお困りごと」訪問調査を実施してきました。2023年度は、高齢者見守り事業を試行的に実施し、今後事業実施に向け協議を進めます。

②障がい者グループホーム整備事業

ア. グループホーム「コラム富田」につづく女性用グループホームの整備検討

重度障がい者夜間支援型グループホーム整備については、2018年5月に富田地域内で男性7名入居のグループホーム「コラム富田」開設入居となりました。

引き続き女性用グループホーム整備に向け社福つながり後援会家族会ひだまりと共に用地確保に努めてきました。

4) 青少年・子育て支援事業

①子ども第三の居場所【とんだNikoNikoひろば】

これまで行ってきた学習支援わんぴーすやこども食堂（ただいま食堂）などをリニューアルし、2024年度より日本財団からの助成を受け、新たに子ども第三の居場所【とんだNikoNikoひろば】を5月からスタートしました。ここでは、子どもとの1対1の関係を重視しながら、子どもたちの生活習慣形成や学ぶ意欲向上を支援することで社会的相続を補完する、地域の行事である地蔵盆や盆踊りへの参加、料理教室、誕生会、自然体験活動などを地域、学校、企業等の協力を得ながら子どもたちに多様な経験を提供することを目的として実施しました。

ア. 【とんだNikoNikoひろば】

昨年度、風の子文庫主催の毎週水曜日に開催していた子どもの居場所づくり事業を拡大し、コミュニティスペースNikoNikoを拠点として、週3日開所しました。

第四中学校区の小学生を対象とした小学生を中心に登録制とフリー制の両方を組み合わせた形で受け入れを行いました。年度末時点で登録者数25名（中学生1名を含む）フリー制10名の合計35名が来所され、1日平均10名（水曜日のみ1日平均16名）となりました。

また、登録制については、登録時に保護者面談実施し、事業の説明や、個人情報の取り扱い、取材対応等についてなど丁寧に行いました。

事業初年度ではありましたが、小学6年生が5名登録されていたため、年度末には卒業送る会を開催し、次年度の中学校に向けての送り出しをしました。1年間を通して、子どもたちの関係性に変化や、思春期など様々な心の変化に触れる機会となり、改めて子どもたちが安心して過ごせる居場所の必要性和、運営の難しさの両方を感じる機会となりました。

- ・ 期間：2024年5月～2025年3月 通年の毎週3回
通常 月・金：午後14時～18時 水：午後14時～19時30分
学校休業日 月・金：午前9時30分～12時30分 水：9時30分～13時00分
- ・ 場所：コミュニティスペース NikoNiko
- ・ 対象：小学1年生～小学6年生まで
- ・ 参加費：100円/1回（食事提供日のみ）回収（延べ120回開所）
- ・ 運営体制：地域ボランティアおよび大学生・大学院生、事務局スタッフ
- ・ 後援：社会福祉法人高槻市社会福祉協議会
- ・ 協定：高槻市

イ. 様々な体験活動の開催

i. 地域の様々な行事への参加や体験の機会提供

子どもたちに様々な体験を提供するべく、地域の行事である地蔵盆や盆踊りへの参加、料理教室、誕生日会などを地域のさまざまなボランティアや諸施設、イベント等の協力を得ながら子どもたちに多様な経験を提供しました。

ii. 特別体験プログラムの実施

また、非日常の様々な体験活動として元小学校教員の檜田地区の別宅を訪れ行った自然体験活動や日本財団が MORIUMIUS（モリウミアス/宮城県石巻市の団体）とコラボして提供する月一回のオンラインプログラム（新鮮な魚介類を配送いただき、魚の食べ方やさばき方などを教えてもらうプログラム）や石巻市の現地を2泊3日で訪れ、自然体験や被災地を訪れるプログラム（宿泊プログラム）への参加など日本財団等の支援を受け日常ではできない特別体験を提供しました。

ウ. 行政・こども園、小・中学校等との地域連携会議開催。

この地域で長年大切にしてきた地域・学校・行政の連携による子どもや家庭の包括支援のため、当法人、富田青少年交流センター、富田認定こども園、小・中学校等・地域ボランティアとの連携会議を概ね2～3ヶ月に1回のペースで開催しました。（計5回開催）

②フードパントリーの実施

ア. フードパントリーの実施

・趣旨：毎年、ケア付き食堂をコンセプトに「一緒に食卓を囲むことを通じてつくられた信頼関係をもとに、家族のこと学校のこと、進路のことといった子どもの生活課題への対応を目指す」ことを趣旨に実施してきましたが新型コロナウイルスの影響によりフードパントリーに切り替えて実施しました。

24年度は6世帯から始まり、11月に1世帯、12月には3世帯が更に追加となりました。例年対象世帯からは子どもの進路や家庭内の様子などを聞く事が多いですが、今年度は特に「物価高騰の中、カップラーメン1つでも助かる」「いただいた食材があつと言う間に無くなるほど活用している」という声が目立ち印象に残りました。パックごはんや調味料類が喜ばれ、今年度は食支援の必要性を例年以上に感じる1年となりました。

- ・期間：5月～3月の毎月1回（実施回数12回）
- ・年間配布世帯数：10世帯
- ・場所：タウンスペース WAKWAK 事務所
- ・対象：市内全域からつながってきたケース
- ・後援：社会福祉法人高槻市社会福祉協議会

イ. 富田版子ども食堂「富田わくわく食堂」

・趣旨：共生食堂をコンセプトに「地域に住む多世代、子どもから高齢者まで多くの人たちがごちゃまぜに交わる交流拠点」を趣旨に開催。今期は、子ども第三の居場所に参加する子どもたちが司会や舞台発表などの運営に携わりました。また、今期も昨年に引き続き、一般財団法人100万人のクラシックライブと協働し、地域・家庭・学校・行政・大学・企業など多セクターの協働で実施しました。

- ・日時：2月1日（土）11時～15時
- ・テーマ：クラシックライブや様々な文化体験を通して「地域に“つながり”の橋をかける」
- ・場所：富田ふれあい文化センターおよび社会福祉法人つながり「サニースポット
- ・内容

①舞台（地下大ホール）

開会セレモニー（来賓あいさつ）

手話トライアングルと子どもたちによる手話コーラス

100万人のクラシックライブ演奏

わくわくワールド参加の海外留学生等による「It's a small world」

ベテラン保育士による「ちびっこ集まれ」

「つるちゃんの街頭紙芝居」

② 昼食（カレーライス 200食） 社会福祉法人つながりほか

- ・参加者：のべ来場者530名、ボランティアスタッフ従事者70名
- ・協賛品：おもちゃ&お菓子（認定NPO法人ふーどばんく Osaka）・歯ブラシ（サンスター株式会社）・食品等（コニカミノルタ株式会社）

5) CSW（コミュニティソーシャルワーク）事業

①コミュニティソーシャルワーク事業

中学校区でのフォーマル（公的機関）・インフォーマル（民間その他）の連携による支援ネットワークという長年培ってきたまちの財産を活かし、また発展しながら子どもから高齢者の困りごと相談への対応や解決、関係機関へのコーディネートを行いました。

ア. 青少年の支援のための学校教育との連携

学習支援わんぱーす卒業生や子ども第三の居場所事業、フードパントリー等の日々のケース対応に当たっては、当該の富田認定こども園、小・中学校、富田青少年交流センター等と密に連携を図り、支援を行いました。また、深刻なケースに当たっては、市のＳＳＷやカンガルーの森などの関係機関等とも連携し相談・支援にあたりました。

V. 収益事業、その他事業

法人の社会貢献事業を支えるための持続的かつ安定した財政基盤を強化することを目的として以下の事業を行いました。

1) 富田地区視察の受け入れおよび講師派遣事業

市内外や他府県の行政機関や福祉施設等へ職員が講師として積極的に出向き、包摂型のまちづくりの実践談や人権啓発の推進を図りました。また、富田地区視察の受け入れを積極的行いました。ここで得た報償費（収益）については、法人の安定的な基盤づくりに寄与するとともに法人の社会貢献事業へ循環しました。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ① SV・助言者等 | 1 件（部落解放・人権大学助言者） |
| ② 研修講師派遣 | 13 件 |
| ③ 富田地区の視察、調査の受け入れ | 13 件 |

2) 事務受託事業

部落解放同盟高槻富田支部、富田富寿栄老人会、富田地区企業者組合、社会福祉法人つながり後援会・家族会ひだまり、富田富寿栄A棟自治会と事務受託契約を行い、計6団体の事務受託について適正に事業を執行致しました。

3) マイノリティと出会う旅 スタディツアーの準備

2025 年度以降に開催予定のアメリカ先住民居留区へのスタディツアーの開催に向け、これまでの長年の親交のあるサウスダコタ州の先住民居留区に加え、海外研究も併せて新たにカンザス州へも訪れました。

- ・期間：7 月 24 日（水）～8 月 17 日（土）
- ・行先：アメリカ・サウスダコタ州 ネイティブアメリカン居留区ほか
アメリカ・カンザス州 カンザス大学・ハスキル大学
- ・内容：①マイノリティ アメリカ先住民との出会い
② マイノリティおよびソーシャルワーク研究
- ・その他：その他のツアー先についても検討するとともに旅行業取扱管理者の取得についても検討しました。

